

令和5年度 第2回 精華町高齢者保健福祉審議会

日時：令和5年8月24日（木）13：30～

場所：精華町役場 6階審議会室

1. 開 会

2. あいさつ

空閑会長

3. 審議会の成立

- ・委員19人のうち出席委員16人により、審議会が成立することについて事務局より報告

4. 議 事

（1）第9期介護保険事業計画策定に向けた国の動向について

- ・事務局より、「（資料1）第9期介護保険事業計画策定に向けた国の動向について」の説明
（質疑応答）

岡田委員：今更恥ずかしい質問だが、地域包括支援センターという、平成18年にできた機能について。そこには「保健師あるいは経験ある看護師」「社会福祉士」「主任ケアマネジャー」の3職種を置くということは知っているが、実際それだけの職種だけではまかないきれないことがあるので、どれぐらいの人口にどれぐらいの職員を配置しなくてはいけないというような基準はあるのか。

空閑会長：最初は中学校区に1カ所ということで2005年にスタートした。もちろんその自治体によって人口の違いがあつたりするので、数を増やしたり、あるいは3職種を手厚くするとかその辺は色々だが。

事務局：一応人口規模に合わせて地域包括支援センターを設置することにはなっているが、どんな圏域でどんな箇所数、何か所配置するかというのは市町村ごとに委ねられている状況だ。ただその3職種を置かないといけないという部分で、例えば1,000人以下の包括センターではそのうち2職種を置けばいいなど、そういう緩和事項は設けられている。手元に資料がないので明確にはお答えできないが、そういう規定が一応ある。

空閑会長：高齢化がやはり進んでいて、介護保険の費用が増えている、かつ、要支援という予防の対応が非常に増えている。20年前の想定された人員では到底今足りなくなっている中で、全部相談が来るため、どこの地域包括支援センターもかなり疲弊している状況で、自治体によっては、そういうケアプラン専門の職員を非常勤のような対応で採用したり、いろんな工夫をしていると思う。おそらく精華町でも同じように、状況を見ながら考えないといけないのかなと。ただ規定としては今事務局から話のあったようなものがある。

岡田委員：もともと精華町は社協に委託して1カ所だったが、5、6年前か、それぐらいに神の園に委託して対象者が増えたことで2カ所になった。しかし保育所だったら「0歳児何人に1人の保育士」など基準があるので、もし今後そういうことがわかれば教えてもらいたい。

事務局：南部地域、北部地域とも、高齢者の人口が増えてきているのは当然認識している。今年度この３職種以外に人を雇っていただけるような若干の加算、委託料の上積みはさせていただいた。それによって、しのいでいただくというか、対応していただくようにしている。今後についてはこの人口増・高齢者増に備えて、また考えていく必要があると考えている。

空閑会長：また何かご質問があれば後からでもかまわないので、お願いしたい。

（２）介護サービス事業所アンケート結果・地域団体アンケート結果について

・事務局より、「（資料２）事業所調査結果報告書」「（資料３）団体アンケート調査結果報告書」の説明

（質疑応答）

空閑会長：資料のこういったサービス事業所からの声とか、いろんな地域で活動されている団体からの声も大いにこの計画に反映していくことになる。資料２の一番最後に自由記述の質問がある。こういうところに書かれる内容も非常に重要で、計画や調査では特に自由記述を大事にしている。同様に地域団体アンケート調査報告書の一番最後のページにある、問１１のその他「今後どうしたいか」「何か意見があるか」というデータは、回答整理はされているのか。

事務局：資料２の介護サービス事業者アンケートの方は、ご意見を自由に書いていただいたところがひとつあった。載せていないが、そここのところは確認している。

空閑会長：資料３の方は意見等あったか。

事務局：資料３の方は１６ページ、１７ページ、１８ページ以降、ここの部分が自由記述の内容をまとめたものである。

空閑会長：できる限りたくさんの意見が、１件の意見であっても非常に大事かなと思っている。こういったところでやっぱり心して、何かの形で残せたらと思う。委員の皆様から何かこのアンケート結果、調査結果について、ご質問、ご意見等はあるか。

岡田委員：前に資料をもらっていろいろ聞いたとき、地域団体アンケートの資料については、シルバー人材センター、老人クラブを対象に団体とすると書いてあったが、読んでいたら、アンケートの言葉で、サロンという言葉が盛んに出てくる。ふれあいサロンなどのサロンが入るのか、たまたま老人クラブをサロンと言っているのか、その６６団体の内訳を聞きたい。

事務局：内訳だが、団体については、老人会、シルバー人材センター、ふれあいサロンで、体操の居場所とＮＰＯ法人さわやかウエストなどの生活支援を行っている団体の方にアンケートを送付している。

岡田委員：シルバー人材センター、老人クラブ、サロンを合わせて、６６以上あると思う。ということは、その団体は無作為というか、そういう抽出をして６６団体を選ばれたのか。

事務局：老人クラブは各単位クラブではなく、連合会で１つとし、団体として送付した。

岡田委員：わかりました。

空閑会長：次の課題へ移り、質問はまた後からでも全体で意見交換の時間を持ちたい。その際にもご質問ご意見等をいただけたらと思う。

(3) 精華町の高齢者を取り巻く課題について

- ・事務局より、「(資料)【差替版】ニーズ調査結果からみる課題」の説明
(質疑応答)

鈴木委員：資料の前回と前々回というのは、いつか。

事務局：前回は3年前で2019年、前々回はその3年前で2016年である。

鈴木委員：資料の11ページの社会参画について、前々回に比べて老人クラブや町内会に参加していない人が大幅に減っている。例えば老人クラブは「参加していない」が60%から24%、町内会は41%から17%と、大幅に変化している。これは質問の内容が変わっているのか。多分同じ質問だと思うが、なぜなのかと思う。ここだけ教えていただきたい。

事務局：項目の内容が変わっていないので3年間の統計がとれていると思う。なぜかまではまだ未分析で、申し訳ありません。

空閑会長：3年に1回基本的には同じ調査項目でやる。今単純集計でやっているが、今の質問の内容などはクロス集計などで分析すると、(理由が)出てくるかもしれない。そういった研究的なことなども、いろいろな範囲で調べると少し詳しい状況が出てくるかなと思うので、またお願いしたい。ただ、こういったところは非常に注目するべきところだと思う。今のご質問で何か考えられるような理由があれば、またお示しいただけたらと思う。せっくなので、今の調査結果を前回、前々回と比べて、少し前回の宿題として事務局のほうにお願いしたので、ご報告いただいた。

- ・事務局より、「(資料4)要介護等認定者の状況と推計について」「(資料5)精華町の高齢者を取り巻く課題(素案)」の説明

田中委員：資料5の1ページに「見守り活動など地域で支え合う仕組み作り」とあるが、健康づくりの教室や老人会、それ以外にそういう地域で支え合う仕組み作りというのは、具体的にどのようなものがあるのか教えていただきたい。

岡田委員：これからどんどん高齢化が進むと思う。特に精華町の場合は今人口の半分以上が学研都市地域に集中している。大体そういうところは、人口は一気に上がって一気に高齢化が進むというようなことがある。それを考えたときに、役所や社協など、公的なところで高齢者を支援していくということにはもう限界があると思う。職員不足もあるので。そう考えたときに、地域の中で支え合う、自発的に支え合う組織づくりというのが一番大事な課題かなと思う。精華町の場合は昔から江戸時代からあるような地域は住民から見たら17%ぐらいで、私の住んでいる北ノ堂のような昭和40年代にできた地域は大体30%弱、あとは先ほど言ったように、半分以上が学研都市という地域だ。

昔からあるような地域は助け合いというか地域のルール、堅苦しくても決め事があって、まとまっていくと思う。だが、新しいところはなかなか支え合うとか地域作りが難しいのが現状かと思う。

しかしそれに甘んじていたら、これからの高齢社会、1人暮らしの高齢者は増えるし、高齢者だけのご夫婦、高齢者のみの世帯も増える。そういうところに支援が行き届かない。それをどうするかというのは地域の支え合いが一番大事かなと思うので、そこをこれからの課題で強調して、何とか計画で文言化していただきたいなど、無責任だがそう思う。毎日新聞の、8月21日の社説が増える単身高齢者についてのもので、大変勉強になった。単身高齢者になってしまうのは仕方がないが、少しでもその人たちが孤立せずに、ずっとここで生活できるような組織作りだと思う。ほうっておいてもできるものではない

い。それをできるように引っ張っていく、牽引していくのは役所であり社協とか地域包括支援センターかと思う。そういうところは専門性を発揮して、それからその地域の支え合う組織づくりをしていくことが大事だと思うので、それを文言化してやっていきたいと思う。

事務局：田中委員からの質問だが、各地域にあるサロン活動や通いの場等の活動のことを指している。続いて岡田委員からの質問だが、地域で支え合うというのが非常に大切なことだというのは当然認識している。そういったことも今のご意見を踏まえた計画になっていくだろうと考えている。計画策定するとき素案を作っていくが、そこでどのような文言にしているかというのはよく検討して、計画に反映させていきたいと考える。

空閑会長：非常に今のお2人のご意見は重要で、毎回計画策定の際に議論になるのが、誰に向けて策定するのかということ。やはり町民の方に読んでいただかないと意味がない。こういった文章になると抽象的になるところを、具体的な例を挙げたり、前に写真を入れようという話もあったが、いかに読みたくなる計画書を作っていくかが大事かと思う。今のようなご意見を踏まえて、町民の方に届くような、わかりやすいような文言で書いていただけるとよいと思う。

岡田委員：実は、役場の企画調整課が企画している、まちづくり塾というのに何回か参加したことがある。多くは退職後の男性が多かったが、退職後、地域で何か地域活動に参加したいということで一生懸命勉強されていた。そういう意欲のある人が結構あると思う。そういう活動をしたい人もたくさんあると思うので、そういう人を掘り起こして組織づくりをしていったらいいのではないかなと思う。

田中委員：今民生委員もさせていただいているが、住民向けに出すということももちろんだが、行政、専門職の方々と住民がどこまでどう協力し合うかということがすごく大事だと思っている。うちの校区でも地域包括や役場と繋がろうとするが、拒絶とまでは言わないが、本当に必要なのか、必要ないんじゃないか、これなら民生委員・児童委員はいらないよねと思われる方の声が1人ではなく耳に入ってくる。専門職の方たちも、このような体制づくり、地域づくりにどこまでどのように住民と取り組んでいっていただけるのか。住民もどこまでできるのか。そういうところが、わかりやすい言葉で表現していただけたらありがたいなと思う。

空閑会長：岡田委員からはいかに男性の人材を掘り起こしていくか、田中委員からは、専門職や行政とが、民生委員を含め、いかに地域住民と連携していくという話が出た。

事務局：岡田委員がおっしゃった、人材の掘り起こしだが、私も昨年度から人生活躍セミナーと称して講座を開いている。昨年度も多くの方がその後いろいろな団体で活動されていると認識している。その活躍セミナーは今年度も実施する。人材の掘り起こしについては先ほどのアンケートの中でも、人材をどうするか、その住民団体の方も人材不足だというご意見があったので、意識してやっている。

空閑会長：田中委員から、連携についてどうやって一緒にやっていけるのかというお話もあった。

事務局：住民と団体とを結ぶ役割として、SC、生活支援コーディネーターを配置している。地域包括支援センターも、あるいは大きくは高齢者のよろず相談所といった機能があるかと思う。それらのところで、特に地域包括支援センターは機能を充実させたいと思っているので、人とそういう場所を繋いで、今後の生活の熟成に繋がっていききたい。

古海委員：地域づくり、地域の繋がりがづくりと言っても、とても難しい。先ほど岡田委員からも、学研都市地域の割合が半数以上ということで、皆さん新たに住まいを考えてそこで生活されている方が、精華町の人口比の中で半分以上いらっしゃるということがわかった。第9期の介護保険事業計画の中でも、国がやはり総合事業の充実ということを掲

げているが、総合事業は、やはり地域づくりに繋がっていく事業だと思っている。これに地域で集中的に取り組んでいくことが、介護予防になったり、元気な高齢者も少し弱ってきた高齢者も一緒になって取り組むことで地域の繋がりができたり、生活支援に繋がったりというふうになると思う。国の制度も利用しながら、地域づくり・地域包括ケアのまちづくりに寄与するような策として、その総合事業が位置づけられているかと思う。総合事業で生活をB型などにできてきているが、包括支援センターを中核に、A型B型C型D型と、住民が複合的に連携し合うような仕組みがまだできてきておらず、道半ばだ。それぞれB型ができてきたというぐらいなので、そこに高齢者を巻き込んでいく、元気な人も巻き込んでいくことが、ひいては地域づくり、地域の繋がり作りに繋がっていくのではないか。国の、総合事業をもう一步進めてやろうというスタンスは、精華町としては本当に重大なポイントとして捉えていて、この新興地の半分以上の人たちがいる中で、わかりやすい具体的なまちづくりや地域づくりをやる、その具体策に繋がるような施策だと思うので、そこには力を入れてほしい。

事務局：総合事業というのは非常に大切な事業であると考えている。今までの介護保険になかったもので、住民が提供する立場と受ける立場で、非常に近い関係で相互にされることになる。精華町は市町村の中でいくとB型を中心に、数や内容が近隣と比べるとできてきている地域なんだろうと認識している。精華町の皆さんの住民の力でこのようになっていく。当然いまだ完成形ではないので、これからまだまだ発展して、もっと大きくしていく必要がある。今後の事業だが、それについては力を込めて進めていきたい。

北崎委員：冒頭の岡田委員からの質問にあったSCのコーディネーターの濃度について、どの程度の割合でどの程度配置したらよいのか。話したように今南北に2人入っているという状況だ。今回の調査で感じたのは、例えば高齢の世帯がだんだん増えていたり、就業人口がだんだん高齢化して、支える側も支えられる側も非常に多様化してきたということ。地域の繋がりの中で、そういった多様性の中で支え合おうとしたら、正直なところ、限界性というのはちょっと感じている。総合事業の必要性は重々わかるし、そうやっていかなければならない。だが、一方で行政的には、果たして今の進め方でいいのかというのを、この状況を見て、もう真っただ中の高齢化の中で、例えばSCはもう少し、もう1人は増やさないといけないのではないかという、そういう具体的な検討をやっていただきたい。文言ではSCの強化とか充実とか進化とか、言葉にはできるが、今言ったような具体的な施策の中で、行政としてはこういうことに今年は移る、今回第9期、第10期の中でやりますということを、わかりやすい用語で説明していただければよいと期待している。質問というか希望だが、そういう内容をまとめて計画書にしていいただければと思っている。

事務局：北崎委員のグループに活躍をしていただいている、それは日々感じている。SCの重要性は認識しているが、今ここで1人増やせるかどうかは何とも言えない。先ほどおっしゃった内容について当然計画に反映できるように考える。

岸田委員：4の「サービス提供体制の整備」というところで、事業所の調査で、かかりつけ医と連携していない事業所が21.4%、2割ぐらいある。僕らからしたらとんでもないことになっている。これに関しては、全くかかりつけの先生と関係のないとなる。それは仕方がないとしても、いわゆる並びが正しければ、それに関しては速やかに改善していただけたらと思っている。あとは在宅医療サービスをということで、この辺のことは往診とか訪問診療を指しているのなら、医師会の中にも在宅療養委員会などがある、何ものかなければそういう医師会のほうに相談していただいてもいいかなと思う。あと歯科往診のほうは、歯科医師会のほうに相談されるとよいかと思う。あと一人暮らしの方が入所などを検討したいが、短期的なショートステイなどを希望されているというところで、ますます、

短期的なサービスの利用は、希望者が多いということになっている。その辺は今後の宿題かと思うので、考えてみてほしい。

事務局：今言っていた例えば体制の重要性などを考えていく。ありがとうございます。

空閑会長：今もそうだが、こういうゲリラ豪雨や先日の台風など、本当に気候が不安定だ。災害に対する備えは、どこでも必要になっているので、そういったところも計画の中では、この会議でということではなく町全体の議論があると思うが、災害対策なども今まで以上に盛り込んでいかないといけないのかなと思う。地域との連携などいかに地域住民の方に理解していただくか、参加を促すかというところで言うと、他の自治体では結局地域包括支援センターがいっぱいであったり、デイサービスとか地元で人が集まらないとか人材不足とかというのは、意外と地域の人には知られていない。自分たちの地域にとって、地域包括支援センターは大切な資源だ。あるいは居宅介護支援事業所が大切なので、あるいはデイサービスやグループホームは大切なので、ここがなくなったら困るということを地域の人たちが考えて、例えば地域包括支援センター応援団を作れないかと、そういうふうに地域の人たちの側から声が出たところもある。やっぱり行政の方も待つのではなくて地域包括支援センターの地域に自ら出て行って、そこで暮らしている人の声を丁寧に聞く中での信頼関係の中から、私達にもできることはないだろうかという議論になっていく。もちろん今私達がやっているが、日常の信頼関係はすごく大事で、民生委員さんも、自分たちが大切にされていないのに、仕事ばかり増えていることになる。日ごろの繋がりや連携、顔を見てのやりとり、そういったことの積み重ねの部分に、こういった計画の意味があると思う。コロナ禍を経て改めてそういった対面の機会も増えていくので、ぜひ形でさらに充実させていければいい。もう10年以上この仕事にかかわっているが、精華町にはそのベースが十分にあると思うので、いろんなアイデアを皆さんと、話し合っていたきたい。

（４）精華町第10次高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画策定方針素案

・事務局より、「(資料6) 第10次高齢者福祉計画第9期介護保険事業計画策定方針(素案)」「(資料7) 精華町骨子案」の説明

(質疑応答)

空閑会長：私が精華町の計画策定にご一緒させていただくようになった頃は、基本理念を毎回別のもののよう一生懸命考えていた。だが基本理念はそんなにコロコロ変えるものなのかという議論があって、ここ数年はこの基本理念でやっている。もちろんこれをずっと継承しないといけないということではないので、それも含めてこういった言葉を入れたらなどや、骨子の中身のことでかまわないので、自由にご意見をいただけたらと思う。

鈴木委員：先ほどの策定方針の素案のところで、PDCAを回していくとおっしゃっていた。この膨大な骨格の中で、チェックというのはどういう形で出すのか。

事務局：今回行った高齢者実態調査等を評価と考えている。

空閑会長：この審議会の中でも途中でもやっている。年2回など進捗状況を共有しながら、ここが進んでいない、ここは十分進めていというところを評価している。そういうところも含めて、チェックということになると思う。いずれにしても作って終わりではなく、計画は動かしていかないといけないので、我々は計画を策定してその役割を終えるのではなく、その進捗状況まで含めて、この審議会に責任があるだろうと思っている。

岡田委員：細かいところで申し訳ないが、10次保健福祉計画で、第2章の4(3)(4)で、(3)は事業所調査結果、(4)は町内団体ヒアリング結果とある。このアンケート結果は、事業所調査結果の場合は、サービス事業者アンケート調査結果、それから団体ヒアリング

は、こちらの団体アンケート調査報告かと思うが、この調査結果とヒアリング結果はどう違うのか。もう1点、赤字で、続・前期計画の評価という振り返りはとてもよいと思うので賛成だ。

事務局：文言について、これはヒアリング結果とアンケート結果だと思うが、チェックもれがあったかもしれない。

齋藤委員：既存の企画、例えばシルバー人材センターであれば、もう少し安易な仕事の確保、そういうものを増やしていったほしい。それから老人会については、もっとぎっくばらんな家庭的な雰囲気、多様化に即した運営をして、会員が増えるような委員会になってほしい。ボランティアをやっている人たちには、ボランティアをすることによって、やりがいがある、あるいは楽しくできるというような運営の仕方をして、お客さんに対して責任者が厳しく対応しないなど。ボランティアを守っていくようなプラスになるような形を求められると思うので、そういうものを含めて総合的に今既存のシステムをもっと有効に活用することによって、目的がかなり大きく果たせるだろうと思う。

北崎委員：先だって、私の居場所に危機管理室の清水さんが来られた。危機管理室の清水さんは警察署から出向されていて、今非常に詐欺行為が多いので、住民の方に直接注意してくださいと、冗談半分に言われた。住民は直接役場の専門の方々と触れ合うことによって、お互いが協力し合える関係や意識も高まってきたのではないかと感じている。そういう意味で、役場の専門の方々が地域に出ることが、我々としても繋がりをつくる上でも非常に有力な手掛かりになるということで、お忙しいでしょうがぜひ地域に出向くような活動を今後役場はやっていただきたい。例えばこのアンケート調査で私が感心したのは、フレイルという言葉だ。我々の居場所に行っても「なんですか」と聞かれていたのが、最近理解度が高まって、このアンケート調査でもその結果が出ている。それは高齢福祉課の四宮さんが地域に出向いて、いろいろ説明会をやられて、その成果ではないかと思う。やはりそういうアウトリーチというか、出ていく活動というのに非常に大きなものがあるので、それも活動の柱として入れていただければと思っている。『華創』や『議会だより』という広報活動は精華町は非常に充実した内容で、その内容を読んでいただければ、町の動きがよくわかる。だが広報活動と一緒にやっぱり広く聴き取る、広聴活動というのは非常に大切だなと思う。その広聴活動の一環として、やはり地域に出向くということ、この方針の中に一つ文言を入れてくれればいいかなと思っている。これは福祉活動だけではなく、特に危機管理室など非常に重要な、危機においてはやっぱり繋がらないとなかなか対応できない部分もあるので、ぜひ町全体の活動として地域住民との連携をどうとっていくかという方針を加えていただければと期待している。

事務局：今回作る計画に、今北崎委員がおっしゃった内容をどのように加え、書くことができるかは、宿題としたい。職員が出向くというのは、委員がおっしゃったように福祉部門に限らず、結構多くの部署でやっているの、私が言うのもおかしいが、いいように使っていただいてもいいかなと個人的に思っている。

空閑会長：最後山本副会長にご発言いただく前に、委員の皆様から何かご発言がありますか。今の北崎委員のお話はすごく大事だ。NHKの「らんまん」は牧野富太郎という植物学者がモデルだが、彼が残した言葉に、「^{ぼっしょう}跋涉の労を厭うなかれ」ということがあって、要するに標本だけ見ても植物学はできない、その草が生えているところ、現場に行かないと学問できないということ。私たちは地域に出向いて行って、行政の方も専門職の方も地域に出向くということ、住民に会いに行くということ、その労を厭ってはいけないということだなと、ちょうど学生たちに今授業で話しているところだ。今日はたくさんのご意見をありがとうございました。ぜひ事務局の方では今日の皆さんの意見を整理して、また計画の方に反映させていただければ、と思う。

5. 閉 会

あいさつ（要旨）

副会長：本日は委員の皆様にはお忙しいところをお集まりいただき、さらに活発なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。私はこういう会はここが一番難しいと思う。文章を作るというのも大事だが、やっぱり具体的にどうできるかということ、それに繋がっていくのが大事かなと思う。ちょっと話が長くなるが、私のところは旧村でどなたかおっしゃったように古民地としてはいろいろ戒律的などと言ってもいいぐらいの決まり事があり、それが脈々と繋がっている。昨今はそれが負担になっていて、高齢で対応できない人がいる。しかしご主人が駄目なら足を引きずってでも奥さんが出てくると、そういう事案が見られる。これも時間的にそんなに余裕がない状況まで見えてきている。こういう場所も含めて、この先の計画ができればと思っているので、今後とも皆様よろしく願いいたします。

空閑会長：副会長ありがとうございました。それではこれをもちまして第2回の高齢者保健福祉委員会終わらせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

事務局：空閑会長、議事進行ありがとうございました。皆様長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

6. その他

- ・事務局より、「次回委員会の日程」の説明
(質疑応答)
- ・特になし